

平成31年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立海南高等学校大成校舎 学校長名：湯川 昌彦 印

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心、進路希望に応じた特色ある教育課程の編成や授業を展開するとともに地域共育コミュニティ等を通じて地域に根ざした学校づくりを目指す。 知・徳・体の調和がとれ、社会や地域の期待に応えられる自主的・主体的で創造性豊かな生徒を育てる。
-------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上明確に記入する)	1 規律ある生活態度の育成
	2 基礎力の向上とキャリア教育の推進
	3 相互の人権尊重と特別支援教育の推進
	4 特別活動の活性化と地域に信頼される学校づくり

中期的な 目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習の到達状況を見極め、それぞれに目標を持たせ、個々の生徒に応じた主体的・対話的な学習活動により幅広い学力を習得させる。 地域の人材、自然資源を生かした特色ある授業、特別活動を展開し、地域や社会に貢献できる人材を育てる。 入学後早期から卒業後の進路実現を目指し、系統だったキャリア教育に取り組み、人間力を身につけた人材を育成する。
学校評価の 方策の公表 の方法	保護者の学校評価アンケートや外部評価について、ホームページ等で公表する。

達 成 度	A	十分に達成した。 (80%以上)
	B	概ね達成した。 (60%以上)
	C	あまり十分でない。 (40%以上)
	D	不十分である。 (40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価							
重 点 目 標			年 度 評 価 (3月27日現在)				
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	生徒の授業への取り組み態度はおおむね良好であるが、消極的な姿勢の生徒が多い。 生徒理解に努め、さらに細やかな指導と授業の工夫が必要である。	教員が積極的に授業研究を進め、生徒が主体的に学べる教材、授業方法を工夫し、基礎学力の向上を目指した取り組みを計画的に行えたか。	授業規律の確立 教材の工夫や研究 個別指導や補習の実施 授業アンケートに基づいた授業改善を行う。	生徒は授業に集中しているか。 教材の工夫や研究に取り組んだか。 個別の指導や補習を行ったか。 アンケート結果を元にした授業改善が速やかに行えているか。	様々な学習課題を抱える生徒一人ひとりに対し、丁寧な指導を学校全体で心がけた。しかしながら、授業に前向きに取り組めない生徒の対応に苦慮する場面もあった。	B	次年度も引き続き個に応じた指導を心がけたい。また、1年生で習熟度で授業を行う英語、国語、数学については、学び直しも交えながら、各生徒の到達目標の達成に向けた効果的な指導を目指したい。
2	生徒の進路希望は進学、就職がほぼ同数である。進路実現のため、入学から卒業まで一貫したキャリア教育が必要である。	生徒の能力や適性を理解し、進路意識を高める指導が行えたか。 家庭と連携を取りながら丁寧な指導をしたか。	面談やキャリアカウンセリングを通し、早期に進路目標を持たせる。 外部講師を活用した講演会等の実施や就職指導員と連携した職場開拓を通し、就職内定率を高める。	就職や進学に向け、補習を実施できたか。 担任や学年と連携した取り組みが進められたか。 ガイダンスやセミナー等で生徒への意識付けができていないか。 希望する職種、職場の開拓ができたか。	就職希望生徒は、全員が3月中旬までに就職先を確定できた。進学希望生徒については、今年度は、四年制大学への進学者が昨年度より増加した。短大・専門学校への進学者も含めて、全員が2月中旬に進学先を確定した。	B	次年度も年度当初に卒業生の就職先を訪問し、状況の確認と生徒のアフターフォローをすることで、早期離職を減らす必要がある。1学年からの系統だった進路指導の確立を進めていきたい。
3	基本的な生活習慣の確立を目指す指導の徹底と、さまざまな課題を抱える生徒たちの状況に適切な対応を行う体制の確立を目指す。	生活指導上の重点目標を教職員で共通理解した取り組みができていないか。 いじめの未然防止に向けた取り組みに積極的に取り組めたか。	生徒の抱える諸問題について、教職員が共有する機会を定期的に持ち、組織的な指導を行う。 保護者との連携を取りながら、S・C・S・S・Wや外部機関とも連携した対応を迅速に行う。	全職員が意思疎通を図りながら適切な指導が行われたか。 生徒の悩みや問題を把握し、保護者と連携しながら適切な指導を行えたか。	教育相談担当の教員を中心に生徒の抱える悩みや諸問題に迅速に、そして丁寧に対応する事ができた。いじめ問題はいつかあったが、家庭との連絡を密にし、教職員全員で取り組んだため、大きな問題には至らず解決できた。	B	次年度は教育相談の体制をより充実させたい。またSSWやSCとの連携をより密なものにして、個々の生徒の問題の早期発見、早期の対応をより進めていきたい。
4	生徒会、HR活動など生徒に自主活動を促し、積極的に行動できる生徒の育成に取り組む。 部活動に参加する生徒は増えつつあるが、さらに活発にしたい。 地域との連携・交流を通し、社会に貢献出来る活動を通し、社会力の育成を図る。	自主的で活発なHR活動や生徒会活動が展開されたか。 クラブ活動に参加する生徒は増えているか。 学校行事・ボランティア活動等において、地域と連携した活動が展開されたか。	部活動への参加を日常的に呼び掛ける。 生徒が主体的にHR活動・生徒会・専門委員会活動ができるように、指導する。	部活動への加入率アップにつながったか。 生徒会が自主的に活動する機会が増えているか。 地域と連携した活動ができたか。またその取り組みの様子はどうか。	設立2年目となる学校運営協議会は順調に進み、これまでの地域と繋がった教育活動にも幅が広がってきた。 生徒会役員の生徒を中心として、同一町内の他校生との連携も深まり、生徒の自主的な特別活動も増えつつある。	B	次年度はより一層、一部の生徒だけが関わる生徒会活動ではなく、より多くの生徒が関わりを持つような地域活動を、できるだけ生徒主導で行わせていきたい。

学 校 関 係 者 評 価	
令和2年 2月17日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価	
<p>地域に開かれた学校が求められる中、地域の祭りや行事で、多くの生徒が関わっている姿は地域からも好評である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元企業との連携については、地元企業への就職が今後さらにすすむように、より連携を深めてもらいたいとの意見をいただいた。 中高合同地域学習発表会「きみの未来フォーラム」については、中学生と高校生が同じ会場で発表するこの取り組みは、大変良かった。高校生、中学生ともに刺激になったと思うという評価をいただいた。 学校での教育活動については、地域とのつながりを深く持ち、生徒を成長させる取組を行っているとの評価をいただいた。 大成校舎の募集定員の1クラス削減については、今後、学校運営で困難な点が出ないようにシステム構築を考慮する必要があるとの意見をいただいた。 	